



いしおかイクボス企業同盟に参加した企業や事業所の職員ら。手前中央は今泉市長。左隣は安藤さん=石岡市で (市提供)

「イクボス」増やそう!

石岡市、地元企業と「同盟」

育児や介護といった部下・これまでの社会における男の家庭事情に配慮しつつ、働きやすい職場づくりを進められる上司「イクボス」を増やそうと、石岡市は8日、市内四十七の企業・事業所などとともに、「いしおかイクボス企業同盟」を発足させた。市によると、同盟は県内では東海村に続いて二例目だという。

参加企業などが出席して市内で開かれた発足式で、今泉文彦市長は「石岡でも労働人口が減り、新たな発想が必要な時代。だからこそ、仕事と私生活の両立ができる職場の実現が重要」とあいさつした。

その上で、「個性輝く魅力的な市にいくため、

私たちが子どもたちの未来を良くするため、今、取り組まないといけない」と力説した。

同盟発足の意義については「漢方薬のようにじわじわ効き目が出る」と説明。

「イクボスがない会社には人材も来ない」と強調し、長時間労働を求められてきた五十代以上の管理職に向け、「自分を基準にしないように」と意識改革を求めた。(越田晋之)



「いしおかイクボス企業同盟」を発足させた石岡市の企業・団体の代表者ら=石岡市大砂

石岡「イクボス」同盟発足

47市を含む働きやすい職場に

私生活と仕事の両立を応援する管理職「イクボス」の企業同盟が8日、石岡市で発足した。「いしおかイクボス企業同盟」(代表・今泉文彦市長)で、市を含む47の企業・団体が加盟。イクボスを増やし、働きやすい環境づくりを進めることと、市全体の雇用拡大や生産性向上を狙う。市によると、同様の企業同盟は東海村に次いで県内2番目。

発足式が同市大砂のふれあいの里石岡ひまわりの館で開かれた。今泉市長は「生産年齢人口が減少する中、魅力的な市にしていくには、行政と企業が一体となりワーク・ライフ・バランスを積極的に推進し、笑顔で働きやすい職場の実現に全力で取り組まなければならない」と決意表明した。

活動内容の柱に、①意見交換の場を設け、各取り組み状況や制度など情報の共有②ホームページや広報紙などで市内外に情報発信③セミナーや講演会の開催の三つを定めた。

加盟した企業・団体は、市のほか、市内にある金融

機関や郵便局、農協、商工会議所、一般企業など。このうち特養老人ホームやさとの高城裕施設長は「職員の特休休暇取得に取り組みできたが、外部の状況も知ることの良い部分を取り入れていきたい」と話した。

その後、父親の育児支援を行うNPO法人「ファザリング・ジャパン」の安藤哲也代表が講演。討論会もあった。安藤代表は「世界では男性の育児参加が出生率を伸ばす状況がある」とし、「男性の育児休業を増やすには上司が変わらない」とアドバイスした。

(高島和弘)